

東京片貝会報

発行所 東京片貝会
港区芝公園2 -11 -4
電話 03(433)5925

来年は第二十回総会

更に躍進をめざして

東京片貝会が誕生した頃のことを先輩に問うと、昭和初期に遡る東京在住の有志が、小学校同窓会東京支部を結成したのが始まりという。左の写真は昭和十年頃のもので、若い人達ばかりの集いであ



ったようだ。会旗のことは前にもお知らせしたが、いまこの棹だけが残っている。こんな会旗を作った当時の先輩の意気込みがどんなものであったかが、よく窺われる。

その後戦後になって、松井卯吉さん(四の町紺仁の人)が会の再建に尽力された。都内の会員をひとりひとり訪問して、名簿を作ったり、組織固めに奔走された。

第一回の総会は昭和三十五年上野で開催され、その後池袋でも催された。この間の詳しいことは記録がないので、いづれ調べてお知らせしたいと思う。

その後安達竜作さんが会長になられて、第四回の総会が目黒の

「みやこ温泉」で開かれた。昭和三十八年五月のことである。それから第十五回総会まで、十二年もの長い間、会のために涙ぐましいほど献身的な世話をされたのだった。

現在の役員が会をひきうけたのは第十六回(昭和五十年六月)からのことである。今年四年目に当る。こうして二十年目が来年に迫ってきた。二十年といえれば決して短い年月ではない。この機会にもう一度会の歩みを振り返ってみることも無駄ではないと思う。東京片貝会の足跡ともいえるべきものをまとめ、会報に載せたいと考えている。

ともあれ、二十周年の意義ある節目を期して、来年の総会は特

浅原神社の修復工事

春祭りの終わった四月二十五日に厳肅な起工式が行われた浅原神社は、五月一日から鎚音高く工事はじまった。

町民をはじめ、たくさんの町外者から多額の寄進が集まり、関係者はみな感激しているという。

盛大にしたいと考えています。つぎのようなプランはいかがでしょうか。

- 郷里から各年次の代表に出席してもらおう。
- 郷里に縁の深い知名人を来賓として招待する。

○母校の児童・生徒に郷里の現状や将来についての意見、感想を書いてもらおう。

○会旗の新調、記念品などなど
右はまだ腹案の程度ですが、このほかにも名案がありましたら、ぜひお聞かせいただきたいものです。



五月中旬現在で四千六百万円集ったが、秋迄には五千万に達する見込みである。工事内容は本殿屋根の銅板葺き換えは勿論、これに伴う本殿の全面的な内部改装が中心となる。付帯工事として、宝物庫兼倉庫が七百万円の予算で作られる。手洗い所も新しく改装の予定で、募金状況が許せば、石段、石畳も計画に入っている。

八月二十六日に完工の見込み。

新年の集い

芝増上寺大広間にて

53・1・29(日)

出席者(敬称略)

| | | | | | | | | |
|-----------|-------|-------|----------------|-----------------|-----------------|-----------------|-----------------|-------------|
| 片貝より | 浅田壮太郎 | 本田善治 | 山田利雄 | 松下利夫 | 山田美代治 | 新沢スミ | 吉原良二 | 山崎ヤイ子 |
| 安達重男 | 小宮初太郎 | 相崎金作 | 佐藤敏雄 | 気田登美 | 小宮幸雄 | 浅田弘 | 永井一 | 佐藤茂(岩手) |
| 明治卒 | 高野三郎 | 丸山フジ | 浅田栄三 | 山口光雄 | 友田正雄 | 佐藤浩平 | 友田潜 | 山口恒(以上三名片貝) |
| 大正卒 | | | 昭和21~30年卒 | | | 吉井武次 | 吉井ミチ子 | |
| 安達市郎 | 吉原周治 | 丸山貴司 | 相崎富代 | 小宮きよ | 五十嵐キヨ | 昭和31~34年 | | |
| 品田軍治 | 安達竜作 | 相崎政弘 | 相崎達一 | 黒崎正 | 小宮トシエ | 藤塚悟 | 黒崎昭二 | 安達正明 |
| 山崎キイ | 高桑喜枝 | 広井三代次 | 児島良子 | 浅田義男 | 小野塚茂 | 諸我時夫 | 神林文博 | |
| 藤塚太郎 | 丸山松江 | 渡辺左武郎 | 浅田好司 | 鈴木秀子 | 横尾ミチエ | 受付混雑の為脱漏あらばお許し | | |
| 大矢福次 | 神林徳次 | 小林倉三郎 | 本田幸男 | 木村ナガ | 宵木マツエ | ください。 | | |
| 安部盛治 | 加藤きよ | 相崎尚次 | 浅田春男 | 鈴木きん | 野田正輝 | | | |
| 安達道宗 | 能沢敬次 | 安達宗吾 | | | | | | |
| 石黒ミス | 横山秀雄 | 三重堀繁蔵 | | | | | | |
| 高橋清雄 | 山口富次 | 安達徳太郎 | | | | | | |
| 昭和2~10年卒 | | | | | | | | |
| 相崎勇次 | 小林敬司 | 日下部政子 | 片貝会は各位のたいへんなご協 | 力により、これまでの旧体勢を徐 | 々に脱皮しつつあることは、喜ば | しいことです。しかし問題が全く | ないわけではありません。 | |
| 小川茂雄 | 本田政秀 | 早川松太郎 | 最近は特に交通や通信の発達に | よって郷里が近くなり、昔のよう | な心境で故郷を見、同郷の人々に | 接する気持ちが薄くなりつつある | ことを見逃がすわけにはゆきませ | |
| 山田せじ | 山口よし | 丸山千代野 | いまま社会の第一線でご活躍の | 青壮年の方には、単に郷愁とか懐 | 旧とかいう面だけでは、会そのも | のに物足りなさがあるのは、当然 | のことかも分りません。 | |
| 芝五郎 | 浅田喜八郎 | 相崎善次郎 | お互いにもつと実生活に即した | 問題を交換しあつて、協力や相談 | | | | |
| 芋川とし | 山口三郎 | 浅田鉄二 | | | | | | |
| 藤田睦子 | 安達幸一 | 勝又功 | | | | | | |
| 黒崎孝造 | 小宮竹次 | 大矢幸治 | | | | | | |
| 芝三四司 | 丸山茂 | 山口武一郎 | | | | | | |
| 佐藤彦一 | 吉原菊枝 | 奥田佳子 | | | | | | |
| 昭和11~20年卒 | | | | | | | | |
| 山口信次 | 安達三好 | 黒崎音吉 | | | | | | |
| 高橋四郎 | 佐藤栄子 | 山口吉五郎 | | | | | | |
| 成島ミヨ | 山田チエ | 山田松次郎 | | | | | | |
| 横見キミ | 大矢常吉 | 小野アイ子 | | | | | | |
| 丹治きみ | 相崎よし | 佐藤道雄 | | | | | | |

新年会に思う

黒崎孝造

片貝会は各位のたいへんなご協
力により、これまでの旧体勢を徐
々に脱皮しつつあることは、喜ば
しいことです。しかし問題が全く
ないわけではありません。
最近は特に交通や通信の発達に
よって郷里が近くなり、昔のよう
な心境で故郷を見、同郷の人々に
接する気持ちが薄くなりつつある
ことを見逃がすわけにはゆきませ
ん。いまま社会の第一線でご活躍の
青壮年の方には、単に郷愁とか懐
旧とかいう面だけでは、会そのも
のに物足りなさがあるのは、当然
のことかも分りません。
お互いにもつと実生活に即した
問題を交換しあつて、協力や相談

する、そういうメリットある、魅
力のある場に育ててゆくべきです。
その第一歩として、まず大勢集つ
てもらふことです。そして、若い
方々の熱意で、今私が述べたよう
な方向に持つてゆくことができた
ら、と切に思います。
先輩は先輩のように、若者は若
者のように、自分達に適した方法
で、会を利用し活用すべきです。
しかし会として、若い方々に呼
びかける努力は続けてはいますが、
会員の皆様からも、進んでご協力
と遠慮のないご意見を賜りたいと
存じます。(昭6卒)

第二回ヤングの集い 青年部主催

友情の場を広げるために!! 152・11・20(日)

東京片貝会では、活動の一環として、一昨年から伸びゆく若い人

たちを励ます会を開催しています。十一月下旬にしては暖い日でした。今年も佐藤会長の世話で、赤坂小学校の講堂をお借りしました。

片貝中より恩師の毛利、鍮水先生がご出席下さり、ヤングの会員一〇名、役員、青年部実行委員ら一七名の方々が参加して、正午に開会。

すし、サンドイッチ、飲み物、果物に舌鼓を打ちながら楽しく話し合いをして、気持ちのほぐれたところで、バスケット、バドミントン、卓球大会にうつり時の過ぎるのも忘れるくらいでした。

ただ出席者が少なかつたのは残念でしたが、参加の皆さんは皆楽しく喜んでおられました。実行委員の私どもとしては、この活動を今後とも盛りあげてゆきたいと考えています。会員の皆様も何かと若い人達にPRしていただき、又よいアイデアがありましたらお寄せくださいますようお願い申しあげ

あげます。片貝中の両先生には遠路本当にありがとうございます。

(青年部長 松下利夫)

出席者
つくし会 佐藤 昭
西 戊 会 阿部光夫 佐藤百合子
吉井朱実 山村博男
船 出 会 松井正之 小野塚玉恵
太刀川正美 吉井美奈子
長谷川三千代

ヤングの会の際は大変お世話様になりました。当日は和やかで會長不在の時こそと、幹部の方々があらゆるところに気を使っておられる様子、又出席してくれた若手が少数ながら、大変よいふん囲気で、つい遠くまで邪魔してしまいました。(鍮水先生より)

今年も去年のように楽しく過ごさせていただき感謝しています。ただ残念なのは、集うヤングが増えないということです。

(佐藤百合子昭45卒)



たより・たより

片貝小学校長 片桐 祿郎

この度は総会にお招きいただき有難うございました。出身地域の味わいを豊かに育てていらつしゃる盛会さに驚くとともに、且教えられるものを抱いて帰校しました。改めて片貝の子どもへの教育に対する覚悟を覚えました。

名簿早速お送りいただき、まことにありがとうございます。私が片貝中に在職したのは、辰己会(28年)から十五誓会(34年)の七年次にわたる諸君が在学中の

頃です。名簿を見ているとなつかしい在りし日が想い出され、感激もひとしおというところです。

和進会 丹治 きみ

この度の片貝会は今までにない楽しい会だつたと思います。

お盆には田舎へ行き、十八年ぶりで踊つてきました。生十四会、二六螢雪会は揃いのはんでんで踊りをひきたてていました。昔のように唄のうまい人がいなくなつたように思いましたが……。

十三鶴会 諸我 時夫

「新潟県人」受取りました。東京片貝会が教ある郷土会のなかでも一番まとまつているという感じがいたします。

竹馬会 堀井 豊作

会報の会員訪問欄に弊商店を紹介いただき、誠に有難く且お恥しい限りです。所用のため新年会は欠席しますが盛会を祈ります。

毎月二回発行の市報おじやを山口孝司氏のお世話で、会へ送られています。読みたい方はどうぞ。

(東京片貝会)

片貝会の動き

新潟県人会納涼の夕

五十二年八月七日、八芳園にて
会より佐藤会長、三重堀副会長
大矢会計の三名が出席。君知事な
ど挨拶ののち、新潟の歌に踊りに
たいへんな盛会であった。

教育感謝祭

十月二十七日 浄照寺にて
当日雨もよいのため、仲使山へ
は代表者だけお参りして、浄照寺
で法要が行われた。会から相崎
(善)副会長が出席、又安達前会
長も参列された。

東京三仏生会

三月十二日 大塚山海楼にて
会を代表して相崎(尚)副会長
が出席。なかなかなかなか会
であったという。

東京小千谷会 東条会館にて

五月七日 安達副会長が出席
小千谷市長をはじめ、町の代表的
な方々が多数出席、盛会であった

松戸新潟県人会

会長は三仏生の出身。同会の会
報、名簿をお送りいただいた。本
会としても、近隣の郷土会とは親
睦を深めたいと思っている。

総会準備会 六月四日

自動車健保会館に役員及び各年
次代表二二名が集り、総会案内状
の発送事務を処理した。終って総
会の諸準備を相談して、五時解散

ふるさとだより

スキーハウス再建

昨年新設された二ツ坂スキー場
にスキーハウスが再建された。一
昨年建てられて間もなく焼失した
のを、こんどはクラブ員が中心に
なって努力奉仕や費用を出しあっ
て作られた。広さは20㎡

中学校にピアノ新調

りっぱなランドピアノが市費
(90万円)で備えられ、二月二十
一日に披露された。昨年の総会に
出席下さった音楽主任の小田島先

お礼申しあげます。

新年会の際、堀井豊作、三重堀
繁蔵、高野三郎氏より、またヤン
グの集いには相崎善次郎、芝五郎
氏からご芳志をいただきました。

このほか鶴田国茂、広井三代次、
丸山貴司、若井やう、太刀川鉄三
郎、藤塚栄三郎、和田力子、太刀
川太郎、長谷川江津氏、その他多
くの方よりご厚志を受けたことを
感謝申し上げます。

生は勿論、生徒達は大変な喜びよ
うだった。

毛利 厚先生栄転

ヤングの集いに毎回お出で下さ
った毛利先生は、四月の定期異動
で与板中学校に栄転された。

浅田先生出版祝賀会

文化財委員長の浅田壮太郎先生
が中心執筆者となつて、最近新潮
社から「林本、良寛禅師歌集」を
共著で出版された。編者林麿雄は
洋画家林武氏の祖父に当る。同書
は良寛研究者にとつて貴重な資料

で出版された。去る五月二十一日
中学校体育館で、この祝賀会が催
された。出席者百七十名もあり盛
大であった。(写真左が浅田先生)

新野 武氏叙勲

新野製菓社長新野 武氏は、春
の叙勲で勲五等が贈られたので、
五月二十八日中学校体育館で祝賀
会が行われた。溢れんばかりの出
席者で、たいへんな賑わいであっ
た。会から祝電をとどけました。

水道工事のこと

本年から工事が始められている
が、来年中に完成の予定という。



あとがき
このたび
は暑い総会
になつてし
まいました
ご出席を心
から感謝い
たします。

来年は万全の準備のもとに、盛
大に行ないたいと念じています。
どうぞご支援ください。